

モスクワの大学で学ぶ日本語学習者の日本語不安調査 —大学1年生を対象とした事例研究—
A survey of Japanese language learners' anxiety among university students in Moscow
-A case study of first-year university students-

(元)モスクワ国立大学附属アジア・アフリカ諸国大学

下村 朱有美 (shuumi.ogoj@gmail.com)



モスクワの学生は「間違えること」について不安を感じやすい？
→日本語の学習時や使用時に生じる心理的不安について調査

・対象者：モスクワの日本語専攻の大学1年生 19名

・先行研究：

Horwitz, et al. (1986) FLCAS (Foreign Language Classroom Anxiety Scale) 5段階 33項目

元田 (2000) 日本語不安尺度 (JLAS, Japanese Language Anxiety Scale) 第二言語環境 6段階 教室内 23項目/教室外 18項目

・オンラインでの質問紙調査

・調査結果

【FLCAS】(avg. 2.39 / 5段階)

● 「教師がどこを訂正しているのかわからないこと」(3.63)

「試験に合格できないこと」(3.32)

「日本語を話すのに、たくさんの文法規則を学ばなければいけないこと」(3.11)

○ 「日本語の授業で間違いを怖がらずに発言できる」(2.32)

【日本語不安尺度】6段階

・教室内 (avg. 2.99) よりも教室外 (avg. 3.84) での日本語使用について高い不安

・教室内

● 「教室で、日本語を間違えないか心配です」(4.22)、「先生の質問の答えがわからないとき、あせります」(4.17)

○ 「日本語を話すとき、他の学生に笑われないか心配です」(1.56)、「他の学生が、私の日本語を下手だと思わないか心配です」(1.83)

・教室外

● 「日本人の日本語がわからなくて、どう反応してよいかわからないとき、不安になります」(4.67)

○ 自身よりも日本語能力が高い学習者の存在や、日本人に日本語を笑われることについてはあまり不安を感じていない

・本研究の意義と課題

【意義】

モスクワの高等学習機関の日本語学習者が感じる不安の特性に配慮した教育環境の整備を試みる上で参考になる結果が得られた

・教室内では他の学習者とのペアやグループワークではより不安を感じずに学習できることが予想される

・教師による訂正箇所の明示や誤用に対するフィードバック、試験や学習内容量の提示方法等について検討が求められる

「多言語・複言語環境」と「モスクワの大学で学ぶ日本語学習者」

【課題】

・調査対象が限定的

・教室外の日本語使用の個人差

参考文献

Horwitz, E. K., Horwitz, M. b. & Cope, J. (1986) . Foreign language classroom anxiety. The Modern Language Journal, 70, pp.125-132

元田静 (2005) 『第二言語不安の理論と実際』、溪水社